

日米投信週次概況(2023年3月15日週)

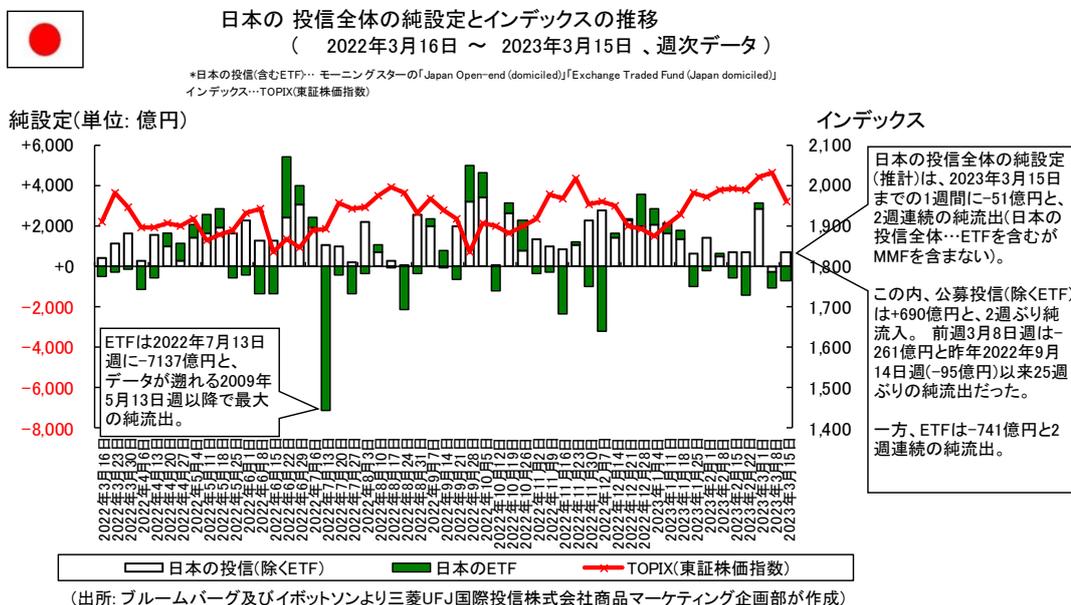
米国ではSVB破綻の中、パッシブ運用投資家が地銀株ファンド買い継続!? バンクローン・ファンド流出はSVBショックと言うよりSEC流動性分類変更か

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾健治 (kenji-matsuo@am.mufg.jp)
窪田真美 (mami-kubota@am.mufg.jp)

- 日本では公募投信(除くETF)が2週ぶり純流入！ 新設のグローバルCBと北米株人気.....p.1
- 米国ではSVB破綻の中、パッシブ運用投資家が地銀株ファンド買い継続！?
バンクローン・ファンド流出はSVBショックと言うよりSEC流動性分類変更か.....p.3

●日本では公募投信(除くETF)が2週ぶり純流入！ 新設のグローバルCBと北米株人気

日本の投信全体の純設定/資金フロー(推計)は2023年3月15日までの1週間に-51億円と、2週連続の純流出(日本の投信全体...ETFを含むがMMFを含まない~イボットソン調べ)。この内、**公募投信(除くETF)は+690億円と、2週ぶり純流入**。前週3月8日週は-261億円と昨年2022年9月14日週(-95億円)以来25週ぶりの純流出だった。一方、ETFは-741億円と2週連続の純流出となった。



TOPIXは2023年3月14日に1947.54と、3月9日に付けた2071.09(2021年9月28日以来1年5カ月強ぶりの高値)から-4.9%下落した。日経平均株価も2023年3月14日に27222.04と、2023年3月9日に付けた28623.15(2022年8月26日以来約半年強ぶりの高値)から-6.0%下落した。

日本銀行は3月13日(月)、14日(火)と2日連続で各々701億円の買い入れを行った。2022年12月2日に701億円の買い入れを行って以来、3か月強ぶりの買い入れとなる。 2022年12月2日の前は同年6月17日に701億円の買い入れと、5か月半ぶりだった。

前述した通り、ETF全体では3月15日週に-741億円と2週連続の純流出となったが、日銀の買い入れがETFの純設定に反映されるのは、翌3月22日週と推測される(日銀が購入したと見込まれるTOPIX型かつ信託報酬の最も低いETFの純設定は、3月15日+20億円、16日+534億円、17日+680億円、20日+98億円と推計される為)。日銀は、ETFの買い入れについて、2022年4月1日より、指数の構成銘柄が最も多いTOPIX連動型のみとし、12月1日からは、原則として信託報酬率が最も低い銘柄を買い入れる運用とした



(https://www.boj.or.jp/announcements/release_2021/rel210323d.pdf 、 https://www.boj.or.jp/announcements/release_2022/rel221028b.pdf)

2023年3月15日週の公募投信(除くETF)純設定額を分類別に見る。 **純流**

入1~3位はグローバルCB-円ヘッジ、北米株、グローバルCB。 4位は日本株大型ブレンドで、前週3月8日週に日経225連動型インデックス中心に2021年9月以来の大きな純流出となっていたが、最新週は純流入へ転じて4位。

1・3位のグローバルCBだが、3月10日及び2月27日に新規設定された先進国の好利回りCBに投資する限定追加型ファンドによるものが大きい。 当初設定額は3月10日設定が2本計351億8800万円と2023年の新設ファンド2位(1位は1月25日設定の単位型日本株ファンドで1047億4383万円)、2月27日設定が151億2500万円となっている。



日本の投信の分類別週間純流出入(純流入の大きい順)

2023-03-15現在

*ETF・MMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万円)	純流入 前週 (百万円)	純流入 4週計 (百万円)	純資産 (百万円)	備考 (和訳は三菱UFJ国際投信商品マーケティング企画部)
1	World Convertible Bond - JPY Hedged	+23,888	+5,357	+45,347	166,869	グローバルCB-円ヘッジ
2	North America Equity	+22,403	+46,020	+99,491	9,710,414	北米株
3	World Convertible Bond	+18,092	-49	+18,062	87,612	グローバルCB
4	Japan Large-Cap Blend Equity	+13,547	-83,107	-43,798	5,979,167	日本株大型ブレンド
5	World ex-Japan Equity	+9,531	+12,210	+53,765	6,228,792	グローバル株-日本を除く
6	India Equity	+7,342	+6,420	+32,905	911,994	インド株
7	US REIT	+7,297	+5,219	+25,547	2,138,625	米国REIT
8	World Equity	+4,551	+22,443	+68,000	15,362,498	グローバル株
9	World High Yield Bond US	+3,661	+3,148	+21,263	974,987	米国ハイイールド債
10	World ex-Japan Bond - JPY Hedged	+3,460	+3,953	+68,690	1,357,183	グローバル債-日本を除く-円ヘッジ
83	World Other Equity	-2,077	-2,159	-7,285	923,300	その他グローバル株
84	Japan Small/Mid-Cap Growth Equity	-2,214	-2,268	-2,868	860,116	日本中小型グロース株
85	Tactical Allocation	-2,343	-4,763	-8,299	1,293,781	タクティカル・アロケーション
86	Japan Large-Cap Growth Equity	-2,567	-4,332	-8,094	1,064,483	日本株大型グロース
87	Conservative Allocation	-2,666	-1,182	-4,290	2,147,613	コンサバティブ・アセットアロケーション
88	Risk Control Allocation	-3,155	-2,766	-10,856	1,457,071	リスク・コントロール・アセットアロケーション
89	World Equity - JPY Hedged	-3,622	-3,943	-11,689	1,482,404	グローバル株-円ヘッジ
90	Trading - Leveraged/Inverse Equity	-3,705	-4,106	-6,570	407,574	トレーディングレバレッジド/インバース株
91	Japan Bond Long/Intermediate	-3,759	-43,731	-73,981	3,468,045	日本中長期債
92	World Bond - JPY Hedged	-31,105	-7,227	-43,053	1,920,215	グローバル債-円ヘッジ
	全92分類の合計	+68,957	-26,084	+393,382	86,851,441	
	指数名	リターン※ 最新週(%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)		
	TOPIX (東証株価指数)	-4.44	+2.67	-1.36		
	S&P500	-2.45	+1.07	-6.01		
	MSCI ワールド	-3.11	+0.73	-6.09		

(出所: ブルームバーグ、イボットソンより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

※現地通貨(MSCI ワールドは米ドルベース、配当込み指数)

●米国ではSVB破綻の中、パッシブ運用投資家が地銀株ファンド買い継続!? バンクローン・ファンド流出はSVBショックと言うよりSEC流動性分類変更か

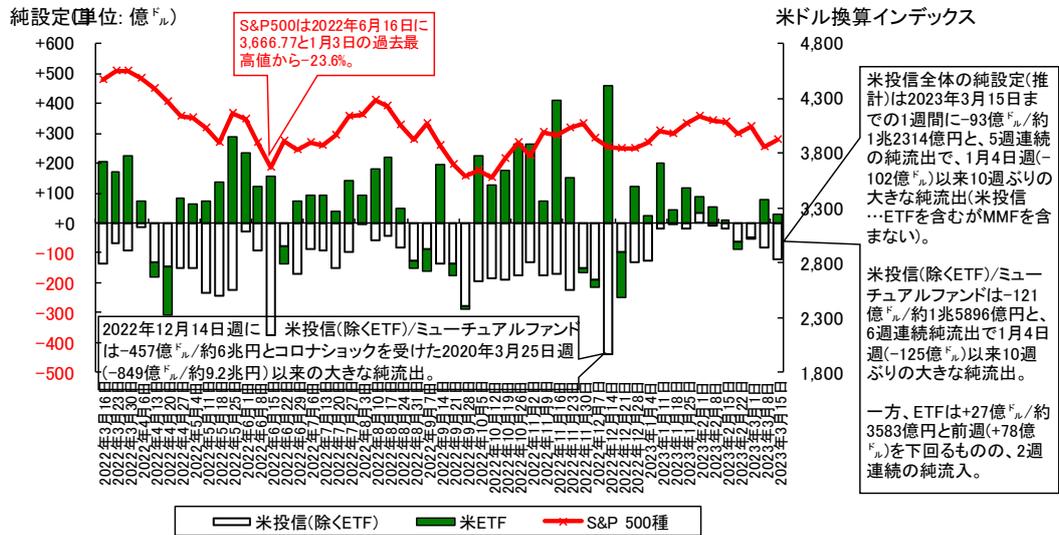
米投信全体の純設定(推計)は2023年3月15日までの1週間に-93億 ドル /約1兆2314億円と、5週連続の純流出で、1月4日週(-102億 ドル)以来10週ぶりの大きな純流出(米投信…ETFを含むがMMFを含まない〜イボットソン調べ)。この内、**米投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは6週連続純流出で加速傾向にあり、3月15日週の-121億 ドル /約1兆5896億円は1月4日週(-125億 ドル)以来10週ぶりの大きな純流出で今年2番目に大きな純流出。**一方、ETFは+27億 ドル /約3583億円と前週(+78億 ドル)を下回るものの2週連続の純流入。



米国の投信全体の純設定と米ドル換算インデックスの推移
(2022年3月16日～2023年3月15日、週次データ)

*米投信(ETFを含むがMMFを含まない)… モーニングスターの「US Open-end & ETF ex MM ex FoF」。

米ドル換算インデックス… S&P500



2023年3月15日週の投信全体純設定額を分類別に見る。大分類では総じて純流出傾向。米国株が-14億 ドル と、6週連続の純流出。**債券は-16億 ドル と3週ぶりの純流出。外国株は-20億 ドル と10週ぶり純流出。**非伝統的株式は+3億 ドル と長期連続の純流入、コモディティは-0.8億 ドル と5週連続純流出。

より投資対象を細かく見る。米投信(含むETF、除くMMF)の分類別純設定額は下記の通り。**純流入1～3位は米国超短期債、米国小型ブレンド株、米国大型グロース株。純流出1～5位は米国大型ブレンド株(S&P500連動など)、米国短期債、米国バンクローン、米国ハイイールド債、エネルギー株(非MLP)。**



米投信の分類別週間純流出(純流入の大きい順)

2023-03-15現在

*ETFを含むがMMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万ドル)	純流入 前週 (百万ドル)	純流入 4週計 (百万ドル)	純資産 (百万ドル)	備考 (和訳は三菱UFJ国際投信商品マーケティング企画部)
上位 10 分類 ↑	1 Ultrashort Bond	+2,658	+1,330	+14,440	282,482	米国超短期債
	2 Small Blend	+1,524	+1,082	+1,309	347,736	米国小型ブレンド株
	3 Large Growth	+1,469	-1,200	-2,466	1,390,662	米国大型グロース株
	4 Mid-Cap Blend	+1,334	-358	+1,559	272,863	米国中型ブレンド株
	5 Long Government	+1,256	+1,013	+2,475	86,332	米国長期国債(6年超)
	6 Mid-Cap Value	+1,025	-19	+1,320	236,676	米国中型バリュー株
	7 Intermediate Government	+913	-121	-469	162,944	米国中長期国債(4-6年)
	8 Short Government	+705	+413	+2,278	78,990	米国短期国債
	9 Small Value	+615	+373	+1,731	178,832	米国小型バリュー株
	10 Consumer Cyclical	+540	-27	-41	26,236	シクリカル消費財株
↓ 下位 10 分類	111 Preferred Stock	-545	+13	-735	44,826	優先株
	112 Miscellaneous Region	-562	-150	-727	31,446	その他単一国株(カナダやドイツ等)
	113 Trading--Miscellaneous	-587	+403	-193	3,471	トレーディングその他
	114 Diversified Emerging Mkts	-780	+223	+225	479,824	グローバル・エマージング株
	115 Trading--Inverse Equity	-1,024	-26	-1,281	22,232	トレーディングインバース株式(ベア型)
	116 Equity Energy	-1,383	+805	-858	63,153	エネルギー株(非MLP)
	117 High Yield Bond	-1,614	-109	-10,192	228,391	米国ハイイールド債
	118 Bank Loan	-1,640	-390	-3,017	69,783	米国バンクローン
	119 Short-Term Bond	-3,054	-1,056	-5,024	359,846	米国短期債
	120 Large Blend	-7,524	-1,126	-16,710	2,842,832	米国大型ブレンド株(S&P500連動など)
全120分類の合計		-9,339	-742	-23,795	15,489,141	
指数名		リターン※ 最新週(%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)		
TOPIX (東証株価指数)		-4.44	+2.67	-1.36		
S&P500		-2.45	+1.07	-6.01		
MSCI ワールド		-3.11	+0.73	-6.09		

(出所: ブルームバーグ、イボットソンより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

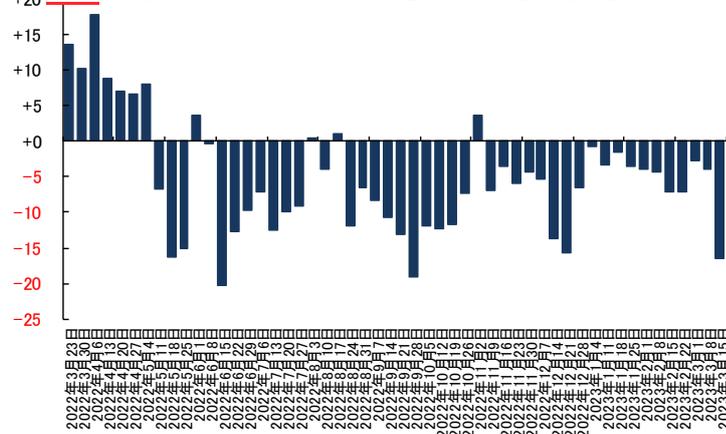
※現地通貨(MSCI ワールドは米ドルベース、配当込み指数)

純流出から見ると、米国ハイイールド債ファンドは5週連続純流出で、**米国バンクローン・ファンドが2022年11月9日以来19週連続純流出で2023年3月15日週の-16.4億ドルは2022年9月28日以来の大きな純流出**となっている。

SVB破綻/SVB collapse(SVBショック/SVB shock~後述※1参照)の影響もあるが、「2022年11月9日以来18週連続純流出」に示される様に、2022年11月2日に承認したSEC/証券取引委員会の投信改革案「**オープンエンド・ファンドの流動性リスク管理およびスウィング・プライシング; フォームN-PX報告**」案が大きい。

米国の投資信託協会(Investment Company Institute/ICI)など業界が強く反対する中、**SECは事実上、米国バンクローン・ファンドを清算またはクローズドエンド・ファンドもしくはインターバル・ファンドにする事を目指している**(2023年2月27日付日本版ISAの道 その375「世界のファンド(含むMMF)流動性管理 米国の投信改革案も英国の資産運用制度改革案も スウィング・プライシング! 非上場株/VC・PE投資は流動性管理と共に」~

【米国バンクローン・ファンドの過去1年間の週次純設定推移(単位億ドル)】



(出所: イボットソンより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

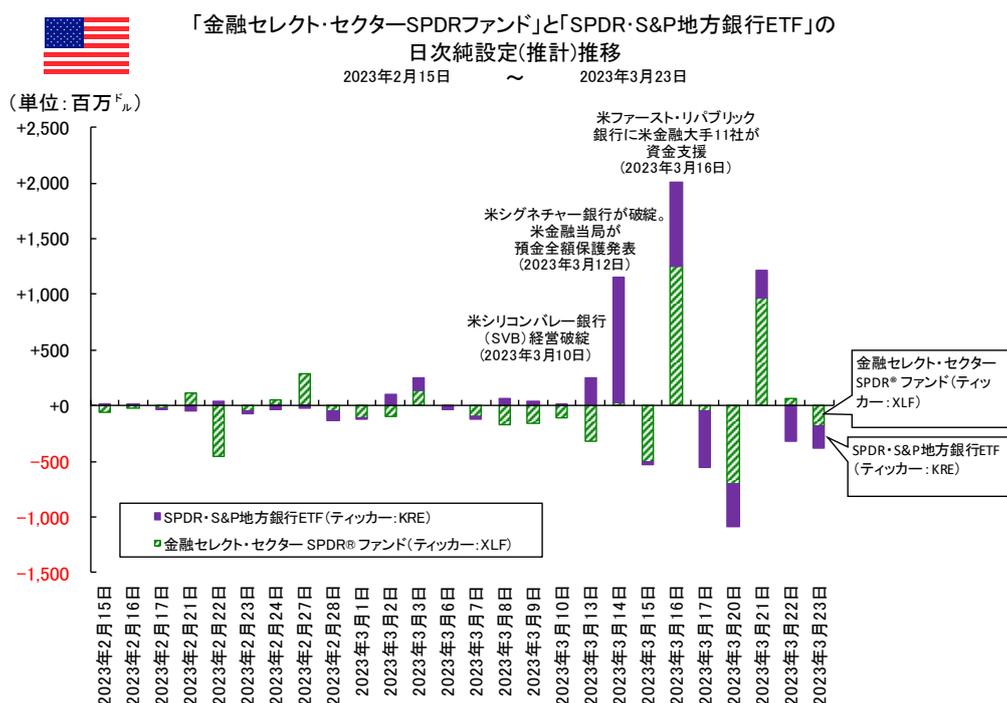
https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_230227_2.pdf)o

SVB破綻/SVB collapse(SVBショック/SVB shock～後述※1参照)で3月10日以降、銀行株が大きく下落しており、3月15日までの1週間でS&P500は-3%に対し、KBW銀行株指数は-22%、S&P地方銀行セレクト・インダストリー指数は-23%である。クレディスイス・グループ/Credit Suisse Group(ティッカー:CSGN)は-37%、UBS(ティッカー:UBSG)は-17%、チャールズ・シュワブは-22%(各社については後述)。

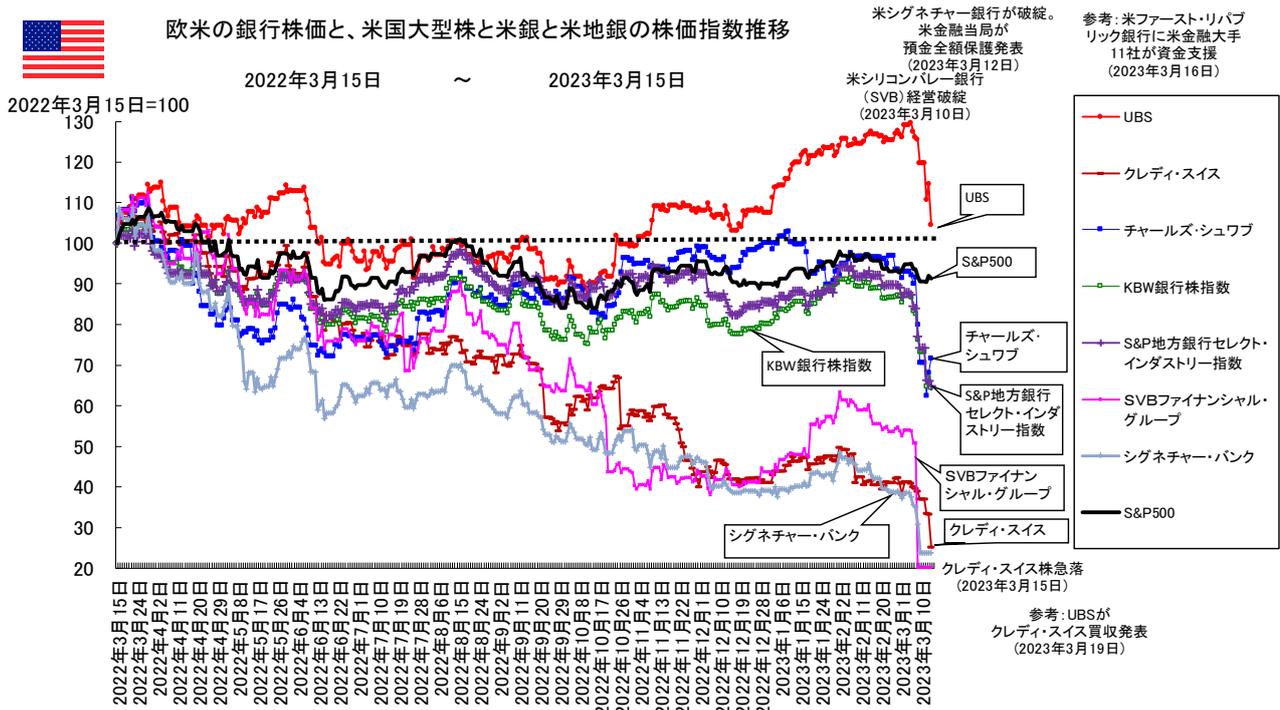
KBW銀行株指数は、米金融セクターで投信残高の最も大きいETF「金融セレクト・セクターSPDRファンド/Financial Select Sector SPDR Fund」(ティッカー:XLF)のベンチマークであり、JPモルガン・チェース/JPMorgan Chaseやモルガン・スタンレー/Morgan Stanleyなどを含むが、SVBの親会社SVBファイナンシャル・グループ/SVB Financial Group(ティッカー:SIVB)も含む。**S&P地方銀行セレクト・インダストリー指数は、地方銀行を投資対象とする投信残高最大のETF「SPDR・S&P地方銀行ETF/SPDR S&P Regional Banking ETF」(ティッカー:KRE)のベンチマークであり、SVBの親会社SVBファイナンシャル・グループ/SVB Financial Group(ティッカー:SIVB)、シグネチャー・バンク/Signature Bank(ティッカー:SBNY)、ファーストリパブリック・バンク/First Republic Bank(ティッカー:FRC)も含む(後述※1参照)。**

「米シリコンバレー銀行(SVB)の破綻を発端とする銀行危機を背景に、トレーダーはポジションを変更している。一方、バイ・アンド・ホールド型の投資家はほとんど動揺することなくポートフォリオに現金を積み増し続けている。…(略)…。トレーダーがポジションをほとんど売り払ったのに対し、バイ・アンド・ホールド型の投資家は通常通り買い付けた為だ。長期保有投資家のグループが投資するETFは、バンガード・グループやチャールズ・シュワブなどが発行する低コストのETFが多くを占め、過去5日間でそれぞれのETFに20億ドル/約2660億円と3億ドル/約136億円の資金が流入している。低コストのパッシブ運用を行う投資家が、危機的な時期にひるむことなく、手堅い投資姿勢を貫いている事が、これらのファンドが持続的に成長できるとブルームバーグ・インテリジェンス/BIが考える理由の1つだ。」(2023年3月20日付ブルームバーグ・インテリジェンス「パッシブ運用投資家、徹底した買いを継続」～ <https://www.bloombergo.jp/>)とされている。

実際、「金融セレクト・セクターSPDRファンド」(ティッカー:XLF)と「SPDR・S&P地方銀行ETF」(ティッカー:KRE)の純設定を見ると、ベンチマークの急落の中、意外に堅調な純流入のある事がわかる(下記図表参照、ただETFだけなので、今後発表されるミューチュアルファンドの資金フローを見る必要がある)。



(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)



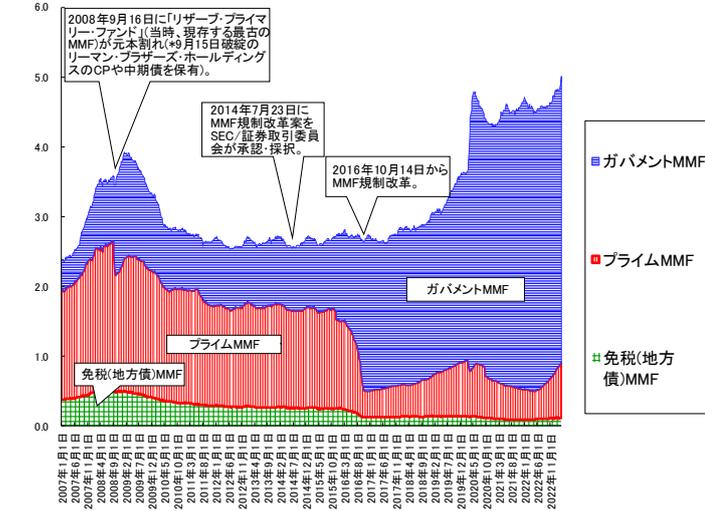
米国超短期債(ウルトラショート・ボンド/Ultrashort Bond)が4週連続で純流入1位。米国超短期債ファンド(含むETF)の純設定(推計)は最新2023年3月15日週に+27億^{ドル}/約3504億円と、5週連続の純流入。 米国超短期債ファンドは2023年の年初より純流出が続いていたが、2月半ばに純流入へ転じ、3月1日週に+70億^{ドル}と週次データが統計で遡れる2009年6月以来で最大となった。最新週の純設定額の内、米国超短期債投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは-12億^{ドル}と7週連続の純流出。一方、米国超短期債ETFは+38億^{ドル}と5週連続の純流入となっている。

上記では米国超短期債ファンドに資金が集まっている事を書いた。「BofAグローバル・リサーチがEPFRのデータとして(3月)17日公表した資料によると、米銀の経営破綻や世界的な銀行株の急落を背景に、キャッシュファンドには3月15日までの1週間で1127億^{ドル}の資金が流入し、週間では2020年4月以降で最大の流入となった。」(2023年3月20日付ロイター「キャッシュファンドに1127億ドル流入=BofA週間データ」~ <https://jp.reuters.com/article/global-markets-flows-idJPKBN2VM086>)と言う事である。米国超短期債ファンドの過去1年間の週次純設定推移を見た所、SVB破綻(後述※1参照)より前の3月1日週に+70億^{ドル}と週次データが統計で遡れる2009年6月以来で最大となっていた事がわかる。

以上の米投信純設定(イボットソン調べ)ではMMFを含まない。だが、超短期債ファンドと同様、MMFに資金が集まっている。「米金融大手ゴールドマン・サックスは(3月)16日、**米国で銀行預金からMMFに資金を移す動きが出始めている**と指摘した。銀行部門の問題を受けて安全な米国債に資金が流入している。同社によると、**個人向けMMFには過去1週間で多額の資金が流入**。流入ペースが加速しており、銀行預金からMMFに資金が移動している可能性が高い。米国ではシリコンバレー銀行(SVB)とシグネチャー・バンクの破綻を受けて、地銀株が急落。預金流出で他の地銀の財務状況も悪化するのではないかと懸念が浮上している。」(下線は当レポート筆者、2023年3月17日付ロイター「米銀の預金からMMFに資金シフト=ゴールドマン」~ <https://jp.reuters.com/article/usa-banks-goldman-sachs-idJPKBN2VJ08J>)、「米国のMMFに流入した資金は3月に5兆^{ドル}(約660兆円)と過去最高を記録した。…(略)…。米投資信託協会(ICD)によると、3月15日までの1週間で約1200億^{ドル}が米MMFになだれ込んだ。1週間の流入額としては2020年4月以降最大だ。」(2023年3月22日付日本経済新聞電子版「マネー、米MMFに流入 1週間で1200億ドル」~ <https://www.nikkei.com/prime/ft/article/DGXZQOCB221240S3A320C2000000>)と言われている。

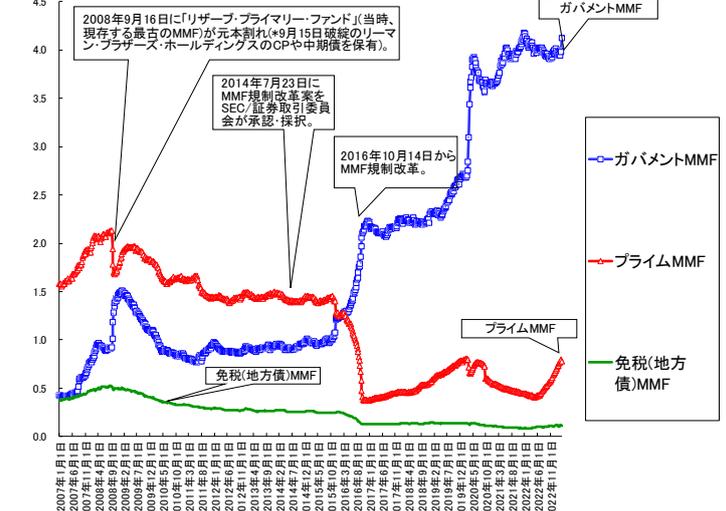
ICI/Investment Company Institute/米国投資信託協会の統計で見ると、**米国のMMFの残高は、最新2023年3月15日時点で、5兆146億ドル/約660兆円と過去最高だ。** この内、**プライムMMF**(CPや短期社債等に投資、機関投資家向けは変動NAV)が**7762億ドルと前週から-180億ドル/約2兆円近く減少する一方、ガバメントMMF**(現金・国債等に99.5%以上を投資、1口=1ドルの安定NAV/基準価額)は**4兆1279億ドルと前週から+1446億ドル/約19兆円増加している。**

米国籍MMF/Money Market Fund/マネー・マーケット・ファンドの純資産推移
*2007年1月3日から毎週水曜日、ICI/米国投資信託協会が発表。
(単位:兆ドル) 2007/1/3 ~ 2023/3/15 (週次ベース)



(出所: ICI/米国投資信託協会より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

米国籍MMF/Money Market Fund/マネー・マーケット・ファンドの純資産推移
*2007年1月3日から毎週水曜日、ICI/米国投資信託協会が発表。
(単位:兆ドル) 2007/1/3 ~ 2023/3/15 (週次ベース)



(出所: ICI/米国投資信託協会より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

残高が減少しているプライムMMFについては「米証券会社**チャールズ・シュワブ**の顧客が今週、差し引きで**88億ドル(約1兆1800億円)**を**プライム・マネーマーケットファンド(MMF)**から引き出した。…(略)…。プライムファンドからの**資金流出が始まったのはシリコンバレー銀行(SVB)やシグネチャー・バンクが破綻した週末以降**で、投資家は慌てて**ファーストリパブリック・バンクやバックウェスト・バンコプ**などの評価に動いた。2022年末時点でシュワブの銀行部門は満期保有目的の資産ポートフォリオで**140億ドル**の含み損を抱えていた。幹部らは今週、不安定な市場を乗り切る上で十分な流動性があると投資家の説得に努めた。シュワブの広報担当者**マイク・ピーターソン氏**によると、同社のMMFは金利変化に対する**エクスポージャーの耐性を試され**、日次および週次の流動性レベルは規制要件を上回っている。同社の**プライムMMFはこの1年間に運用資産が急増した**という。ピーターソン氏は電子メールで『金利上昇局面では、顧客が利回り急上昇を生かせるようにしたが、**市場が不安定な今は、予想通り顧客は比較的安全なガバメントファンドに向かっている**』と指摘。『**当社のMMFではプライムファンドからガバメントファンドへの移動が見られるが、こうした市場環境では典型的な動きだ**』とした。シュワブの株価は13日に一時**45%**と、取引時間中としてこの2年余りで**最安値**を記録した。…(略)…。シュワブの**ファンドは米国のプライムMMFとしては最大級**。通常、金融機関や非金融会社が発行する証券に投資する**プライムMMFは、世界の多くの大手金融機関にとって資金源だ。**」(下線は当レポート筆者、2023年3月17日付ブルームバーグ「シュワブのプライムファンド、3日間で顧客資金1兆1800億円流出」~ <https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2023-03-16/RRMX2Z70AFB401>)とされている。

米国MMF(およびミューチュアルファンドの)の最新の流動性管理規制については2023年2月27日付日本版ISAの道 その375「世界のファンド(含むMMF)流動性管理 米国の投信改革案も英国の資産運用制度改革案も スウィング・プライシング! 非上場株/VC・PE投資は流動性管理と共に」(https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_230227_2.pdf)を参照の事。

また、投信等資金フローについては、2021年9月13日付日本版ISAの道 その341「ハーバード大やシカゴ大も注目の投信等資金フロー! 米国ではファンドマネジャーが昔から注目、提供会社も多々!!~日本の投信フローは投信全体でもNISA向けファンドでもグローバル株、米国株、アセットアロケーションが人気~」(https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_210913_2.pdf)を参照の事。

※1: SVB破綻/SVB collapse(SVBショック/SVB shock)***



2023年3月10日に米中堅金融会社SVBファイナンシャル・グループ/SVB Financial Group(ティッカー: SIVB)の傘下で総資産(2090億^{ドル})が米商業(地方)銀行16位のシリコンバレー銀行/Silicon Valley Bank/SVBが破綻を発表、FDIC/Federal Deposit Insurance Corporation/連邦預金保険公社が預金保護発動した(預金保護上限は1口座当たり最大25万^{ドル}/約3360万円、Department of Financial Protection and Innovation ~ <https://dfpi.ca.gov/2023/03/10/california-financial-regulator-takes-possession-of-silicon-valley-bank/>)。リーマン・ショック以降では最大の銀行破綻(リーマン・ショック…2008年3月14日に米投資銀行5位のベアー・スターンズ、2008年9月15日に米投資銀行4位のリーマン・ブラザーズ・ホールディングス、2008年9月25日に米S&L/貯蓄金融機関最大手ワシントン・ミュージュアルなどが次々破綻)。SVBは1983年の設立当初からスタートアップ法人向けに特化しており、「スタートアップの為の銀行」、「ベンチャー・キャピタル・ファンドの銀行」として知られていた。それでスタートアップ法人の預金が6割超の為、預金保護対象とならない預金が9割を占めた。しかしFDIC等が3月12日に全預金保護を発表した。

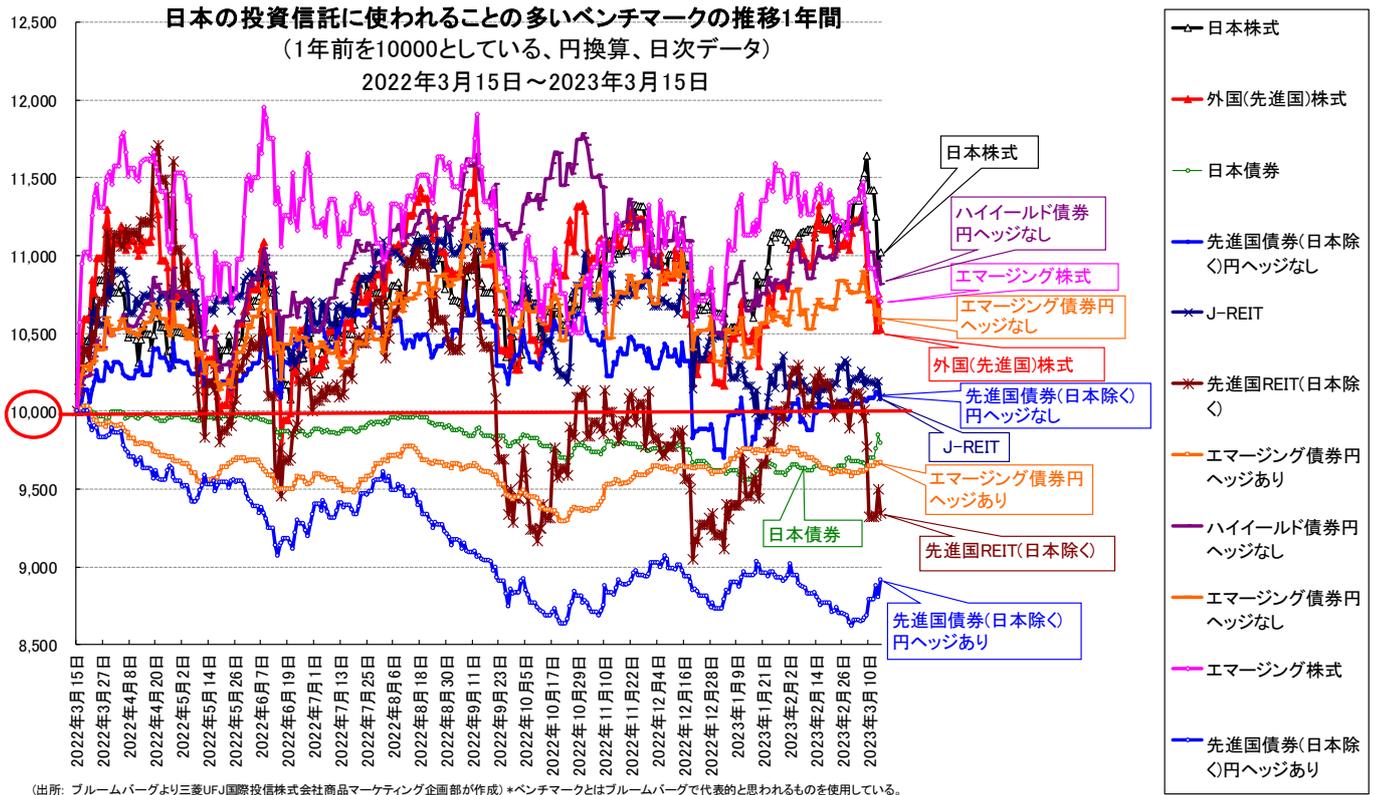
2023年3月12日に総資産(1104億^{ドル})が米商業(地方)銀行29位のシグネチャー・バンク/Signature Bank(ティッカー: SBNY)も破綻(全預金保護)、米地銀に対する信用不安が発生した。米商業(地方)銀行14位のファースト・リパブリック・バンク/First Republic Bank(ティッカー: FRC)の株価は暴落した。米地銀に対する信用不安は、(元々不祥事が続き多額の顧客流出と損失に見舞われて株価が低迷していた)スイス金融機関2位のクレディ・スイス・グループ/Credit Suisse Group(ティッカー: CSGN)に飛び火、大量の預金流出が起き、3月15日にスイス国立銀行(スイスの中央銀行)が流動性供給声明発表、3月16日に最大500億^{スイスフラン}/約7兆円借り入れ計画発表、3月19日にスイス金融機関最大手UBS(ティッカー: UBSG)によって買収される事が両社とスイス政府から発表された。クレディ・スイスは世界の金融監督機関が「グローバルなシステム上重要な銀行(G-SIBs)」と認定した30社の1社で金融危機を鎮める側で、世界のウェルスマネジメント会社預り資産/AUMのランキング3位だった(基本2020年で1位はUBS、2位は米証券会社エドワード・ジョーンズ/Edward Jones、4位が米モルガン・スタンレー・ウェルスマネジメント/Morgan Stanley Wealth Management ~ <https://www.adratings.com/top-wealth-management-firms/>)。

3月10日のSVB破綻につて、その前に米ペイパル・ホールディングス/PayPal Holdings共同創業者で資産家(元トランプ前大統領権移行チーム)のピーター・ティール/Peter Thiel氏が設立したベンチャー・キャピタル・ファンド「ファウンダーズ・ファンド/Founders Fund」(<https://foundersfund.com/>)が投資先企業にSVBから現金を引き揚げるよう提言したと言う(2023年3月9日付Bloomberg「Peter Thiel's Founders Fund Advises Companies to Withdraw Money From SVB」~ <https://www.bloomberg.com/news/articles/2023-03-09/founders-fund-advises-companies-to-withdraw-money-from-svb>)。「経営が危ないとみなされた銀行の前に預金者が長蛇の列を作るという光景は、もはや過去の出来事になるようしている。デジタル技術が加速する中で育ってきた今の世代の顧客は、スマートフォンを数回タップするだけで預金を引き出せる。今月(3月)6日からの週にソーシャルメディア上で、有力投資家ピーター・ティール氏のファウンダーズ・ファンドを含むベンチャーキャピタル数社がSVBから現金を引き揚げるよう助言しているとの情報が伝わると、株価は急落。顧客が一斉に逃げ出した。」(2023年3月22日付ライター「焦点:SVB破綻に見る、デジタル時代の『取り付け騒ぎ』の構図」~ <https://jp.reuters.com/article/svb-sms>)。

(IDP/KBN2V006L)。



2023年3月10日にSVBが破綻を発表する前の3月8日にSVBは株主宛て書簡で「金利の上昇が続き、公募および私募市場が圧迫され、顧客のキャッシュバーン/現金燃焼水準が事業投資に伴い上昇すると予想される為、増資とポートフォリオの売却可能有価証券を実質的に全て売却する措置を講じている。」と説明した。3月9日に預金420億^{ドル}が引き出され9億5800万^{ドル}の現金不足となり、SVBファイナンシャル・グループ/SVB Financial Group(ティッカー: SIVB)の株価は-60.41%と言う上場来最大の急落を見せ、2016年9月14日来の安値である106.04^{ドル}になった。3月10日早朝の時間外取引でも急落を続け、株式の売買が停止された。売買の停止前3月9日の引け値106.04^{ドル}は2021年11月16日に付けた763.22^{ドル}の-86.11%である。シリコンバレー銀行/Silicon Valley Bank/SVBの親会社であるSVBファイナンシャル・グループ/SVB Financial Group(ティッカー: SIVB)は2023年3月17日に米連邦破産法11条(民事再生法に相当)の適用を申請したと発表した。



以上

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道(及び投信調査レポートの一部)のバックナンバー:

「各年… <https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html> 、
<https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html> 」。

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 企画グループ

松尾 健治(kenji-matsuo@am.mufg.jp)、

窪田 真美(mami1-kubota@am.mufg.jp)。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、内外の資産運用に関連する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。本資料は、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
- MSCI ワールド インデックスに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会